

令和4年10月25日発行

栗原普及センターだより

「くりはら」

152号

秋空に照る
深紅に染まる
「サワールージュ」

甘い系統のりんごが多く品種登録されている中、宮城県で育成され、県としてりんごで初めて品種登録をした、酸味の非常に強い品種「サワールージュ」。

酸味系りんご「紅玉」と比べ、早く収穫でき、さらに欠点だった生理的な落果やサビやジョナサンスポットなどの果面障害を克服した、外観の美しい品種です。

果皮が深紅に染まり、皮と果実を一緒に煮るときれいなピンク色に仕上がるほか、煮えやすいことから短時間でジャムに仕上げることができ、料理やお菓子づくりに適しています。

秋のティータイムに温かい紅茶と手作りのアップルパイはいかがでしょう。

令和4年度前半の普及活動状況

ズッキーニ立体栽培講習会を開催しました

令和4年8月26日(金), グリーンな栽培体系への転換サポート事業検証ほ場(瀬峰地区・築館地区)を会場に, ズッキーニ立体栽培講習会を開催し, 生産者など34人が参加しました。このほ場では, 生分解性マルチを使った省力化と立体栽培による軽労化に関する技術の検証をしています。

当日は, それぞれの生産者から栽培概要, 普及センターから立体栽培の特徴, 種苗会社から生分解性マルチ3種類の特徴とズッキーニの今後の管理について説明が行われました。

また, 築館会場では, ほ場主と普及センター職員が立体栽培を実演した後, 実際に参

加者も体験しました。また, 検証ほ担当農家3人に立体栽培の所感を伺ったところ, 作業性や秀品率が向上したとの声がありました。

参加者は, ほ場見学に加え, 体験や意見交換を通じ, 立体栽培への理解を深めたようでした。

普及センターでは今後も人と環境にやさしいズッキーニ栽培を支援していきます。



【ズッキーニ立体栽培講習会】

調査結果から次作のより高い収量に期待!!

栗原市金成津久毛地区では, 数年前からカルビーポテト(株)向けの加工用ばれいしょ栽培に取り組んでおり, 今年は, 生産者2人が67aに作付し, 8月に収穫を終えました。

これまで普及センターでは, 定期的な巡回による病害虫防除指導のほか, 販売先であるカルビーポテト(株)と共同で現地指導や生育調査を実施してきました。また, 7月には先進地であるJAみやぎ登米管内において栽培管理のポイントについて学ぶとともに, 生産者間の情報交流を図るための「加工用ばれいしょ現地研修会」を開催し, ばれいしょ栽培の普及に取り組んできました。

今作の収量(規格品のみ)はこれまで最高の2t/10aを超え(普及センター調査ほ調べ)生産者も手応えを感じているようでした。収量調査結果などから, 栽培管理等の課題が明確となったことから,

次作では, 課題に留意しながら栽培管理を行うことで, より高い収量が期待されるところです。



【収穫された「加工用ばれいしょ」】

～輝くシャインに魅せられ, 技術習得に意気込み～ シャインマスカット栽培技術講習会開催!

令和4年9月12日(月), 栗原市金成のシャインマスカット栽培園地で, 「第2回シャインマスカット栽培技術研修会」を開催し, 生産者や今後導入意向のある方々など, 32人が集まりました。

栗原地域では, 水稻育苗ハウスを活用したぶどう栽培が行われており, ぶどうは園芸振興を目指す栗原圏域産地戦略プランの重点振興品目に位置付けられています。

今回の研修では, 「収穫期の見極め」として, カラーチャート及び糖度計の活用, 食味のポイントを説明したあと, 「長期貯蔵技術」の可能性について紹介しました。また, 例年, 問い合わせの多い「裂果」について, その原因と

対策を資料を用いて解説しました。さらに, 園主の田中学さんから, 直売や贈答における販売様態について情報提供いただきました。

参加者からは, 日頃の管理作業で迷っている点や疑問に感じている部分についてたくさんの質問が出され, シャインマスカット栽培への高い関心が伺えました。



【シャインマスカット栽培技術講習会】

使用前にもう一度, 「農薬ラベル」を確認しましょう

女性農業者キャリアアップ講座を開催しました

令和4年7月27日(水)、栗原市市民活動支援センターで、女性農業者の資質向上や働きやすい環境を整備するための支援の一環として「女性農業者キャリアアップ講座」を開催しました。最初に、県食と暮らしの安全推進課より、「食中毒の予防について」と題し、食中毒の種類や予防方法について講義がありました。次に、みやぎの食を伝える会に所属する菅原美代子氏、田中佑子氏から、「見直してみよう、加工技術の基礎」と題し、塩分濃度を中心としたお話をいただきま

した。研修会を通じて、食中毒予防に向けた食品保存や調味に必要な塩分濃度など、調理の基礎について再確認することができました。



【女性農業者キャリアアップ講座】

栗原農業士会員が互いの経営を学び合う視察研修会が開催されました

令和4年9月13日(火)、栗原農業士会(会長：熊谷正幸氏)による令和4年度経営状況相互視察研修会が開催されました。

本研修会は、会員の農業経営発展に役立つため、お互いの経営状況を視察し合うもので、今回は金成地区の熊谷正幸氏(酪農、指導農業士)と若柳地区の鈴木善典氏(施設きゅうり、青年農業士)を訪問し、経営や技術の内容について話を伺いました。

当日は、栗原市内で先進農業体験学習中

の宮城県農業大学校生2人も参加し、交流を図りました。先輩農業者の活躍は研修生にとって大きな励みになったようです。



【経営状況相互視察研修会】

新規就農者紹介!

～孫 麗娜(そんりな)さん～

孫麗娜さんは、現在栗原市築館地区と金成地区でズッキーニ約100a、露地キュウリ20aを栽培している(株)金源(かなもと)の代表をしています。

中国の農村出身で、身近に農業を見て、手伝って育った孫さんは、仙台市で飲食店を経営していた頃から、農業がしたいと考えていたそうです。令和2年秋、縁があって市内金成地区に約50aの農地を借りることができたことから、ほうれんそうの栽培を始めました。

令和3年春からは本格的にズッキーニ栽培を始め、同6月には、築館地区でもズッキーニの栽培を開始しました。分からないことがあると、部会役員やJA、普及センターに積極的に質問し、一生懸命栽培に取り組んでいます。昨年は栗っこズッキーニ

部会で、最多出荷者の表彰を受けました。今年は、ズッキーニに加え、きゅうり栽培にチャレンジするなど、超多忙な毎日をバイタリティーと笑顔で乗り越えています。



【笑顔で「農業が好き」と話す麗娜さん】

気候変動に適応した農業技術情報

最近よく耳にする夏期の異常高温や記録的な暖冬、頻発する大雨などの極端な気象現象は、地球温暖化との関連が指摘され、農業生産にも大きく影響しています。仙台管区気象台によれば、宮城県では、年平均気温が100年で約4.6℃上昇し、仙台の平均気温は今後100年で現在の福岡と同程度になると予想されています。

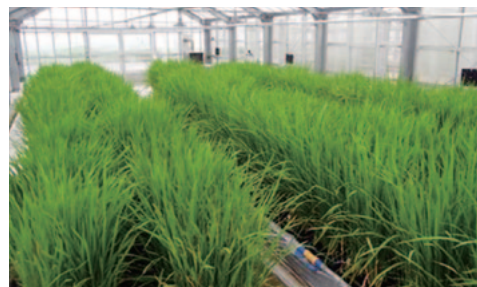
気候変動による高温が農作物へ及ぼす影響として、水稻の収量・品質の低下、りんご等果樹の日焼けや着色不良、花きの奇形花発生や開花前進・遅延、作物全般に害虫の多発生などがあげられており、農業生産現場でも影響が顕在化してきました。このため、被害を減らすために適応策を講ずる必要があります。

宮城県では、こうした気候変動や異常気象に適応した生産管理技術を中心に、関連情報として、環境に配慮した農畜産物の生産管理技術の開発に向けた取組を紹介するサイトを開設し、情報提供を行っておりますので、どうぞ御活用ください。

みやぎの気候変動に適応した
農業技術情報サイト+ (プラス)
(<https://www.kankyou-marc.jp/>)



【掲載例：実施中の試験研究】



「温暖化に適応した高温に強いイネづくりの開発」



「主要露地野菜に関する温暖化適応技術開発」

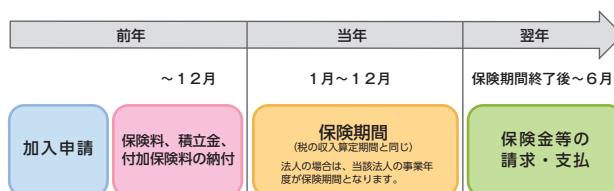
さまざまなリスクから農業経営を守る「収入保険」をおすすめします

- ・原則全ての農産物を対象に、自然災害や価格低下だけでなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を幅広く補償します。倉庫の浸水被害、取引先の倒産、病気で収穫不能などにも対応できます。
- ・保険期間の収入（農産物の販売収入）が、基準収入の9割を下回ったときに、下回った額の9割を上限に補てんします。
 - ※基準収入は、過去5年間の平均収入（5中5）を基本に、保険期間の営農計画も考慮して設定（規模拡大など上方補正）
 - ※毎年農産物（自ら生産したもの）の販売収入は、青色申告決算書等を用いて整理します。
 - ※農産物の販売収入には、精米、仕上茶などの簡易な加工品の販売収入も含まれます。
 - ※肉用牛、肉用子牛、肉豚、鶏卵は対象外です。

- ・青色申告を行っている農業者が対象です（加入申請時に青色申告の実績が1年分あれば加入できます）。
- ・保険方式（掛捨て）と積立方式（掛捨てではない）の組み合わせができます。
- ・保険方式の補償の下限を選択することで、保険料を安くすることができます。

※補償の下限は、基準収入の70%、60%、50%から選択できます。

- ・令和4年の収入保険から、共通申請サービスを通じてインターネット申請した方や自動継続特約で契約を更新した方は、付加保険料（事務費）が割引となります。
- ・お問い合わせは、宮城県農業共済組合県北支所（0220-22-8411）へ、または、ホームページ（<https://www.nosaimiyagi.or.jp/>）をご覧ください。



【加入・支払等のスケジュール】



農地中間管理事業を活用しましょう

栗原農業改良普及センター 〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木5-1 Tel:0228-22-9404 Fax:0228-22-6144

